

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5112 日本の文化と文学3			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	J301教室				
代表教員	田村 景子				
担当教員	田村 景子				
テーマと到達目標	副題：ホラーが照らし出す人と社会の暗黒 怪異・異形・魑魅魍魎・鬼・怪物……有史以来、恐怖と恐怖の対象とは、常に記述され続けてきた。では、人間の根本的な感情であるはずの恐怖、もしくは恐怖をもたらす怪物的なものやことは、なにか？ 人の「壊れ」にとどまらず社会の「壊れ」、国家の「壊れ」にとどく毒々しく豊饒なホラー的表象と、そのホラー的状況を現出させる怪物たちについて考えよう。				
概要	戦争による大量死と殺戮の記憶、すさまじい思想統制、貧困と格差……これらの苛烈な現実とは、純文学にも大衆文学にも入り込み、毒々しく豊饒なホラー的表象に結晶する。「ホラー」というジャンルが確立する以前のホラー的表象からはじめ、ホラー映画やホラー小説、ホラーマンガにホラーアニメまで。人間個々の心身に関わる「壊れ」の物語が、社会の「壊れ」の只中でこそ受容される過程を追体験しよう。授業は講義形式の予定だが、受講人数によってはグループ討議や発表もとりにいれる。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	ガイドダンス——今、頭上にある危機？				対面授業
第2回	神代から末世へ——「まつろわぬ」怪物たちの誕生				対面授業
第3回	仏教的規範が既存の社会を守る——安達ヶ原の鬼女				対面授業
第4回	戦乱の時代に怪物は主人公になるが——幽霊たちの演劇としての「能楽」				対面授業
第5回	小さな怪物たち——江戸の怪奇譚「耳袋」から				対面授業
第6回	文明開化の時代——超現実なのか神経のせいなのか				対面授業
第7回	対外戦争と破壊された心身——夏目漱石「趣味の遺伝」と江戸川乱歩「芋虫」から				対面授業
第8回	帝国主義と怪物——幸徳秋水事件と石川啄木『時代閉塞の現状』				対面授業
第9回	アジア・太平洋戦争というホラー的状況——大岡昇平「野火」「不慮記」を中心に				対面授業
第10回	ゴシックホラーからモダンホラーへ——ホラーとモンスターの在り処				対面授業
第11回	アメリカという現代ホラーの震源地——ベトナム戦争の体験から				対面授業
第12回	核戦争の危機という共時性——大友克洋『AKIRA』から／まで				対面授業
第13回	変形する身体——塚本晋也『鉄男』、岩明均『寄生獣』				対面授業
第14回	Jホラーの黎明——綾辻行人『殺人鬼』、鈴木光司『リング』				対面授業
第15回	ホラーは人と社会の暗黒をうかびあがらせる				対面授業
成績評価の基準	受講態度50%、期末試験（教場レポートを予定）50%で評価し、2／3以上の出席がない場合は単位認定を行わない。なお受講態度は、授業への貢献度、授業中の小課題への取り組みなどを総合して判断する。				
履修にあたっての留意事項	「日本の文化と文学4」との継続履修が望ましい。扱う作品やトピックスは、授業の進行状況と受講者の関心に従って、随時変更する。シラバスに列挙した作品をはじめ、刺激的な内容や映像を授業中に提示する可能性がある。ホラーをテーマにした授業であることをよくふまえて、受講を決めること。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	オンライン授業に切り替わった場合、資料のダウンロードや印刷などは各自で行うこと。		
教科書	授業開始時に購入しておく必要はないが、関係の深い近著として『希望の怪物：現代サブカルと「生きづらさ」のイメージ』（田村景子、笠間書院、2023）がある。扱いは、授業中に述べる。	教科書(ISBN)	ISBN-13：978-4305709769
参考文献	授業中に指示する。ただし受講者には、Webシラバスに挙げた小説や映画やマンガをはじめ、積極的に広範な読書や映画鑑賞を期待したい。	参考文献(ISBN)	